

地形は前日の南北兩山尙ほ西北に走り、清水河驛に到りて接近し、其間僅に三百米突其れより又相遠ざかりて、此に武勝驛の谷地を形成し、其の最廣地點は、約一千六百米突に達す。次で再び接近する處は、即ち伏羗の狹谷地にて、其の最廣地點も一千米突に過ぎず。次で小馬營、鶯窩山を経て谷口の谷地に到る。蓋し東山脈の斜面は概ね緩にして、平蕃、清水河間及小馬營、谷口間の山腹以下は、一臺地を成し、山腹以上は稍々急なり。又西山脈の斜面は、平蕃、武勝驛間は急、武勝、谷口間は緩、山麓は平野を成す。途上村落少なく、従うて耕地乏しく、樹木亦少きも、羊、牛、馬の牧養は次第に多きを見る。

車上の宿泊

懷爐灰の代用

蘭州出發以來、車上の人と爲りしが未だ幸に其の上に宿泊するに至らざりき。然るに本夜以後、一、二日間は愈々之を實行すべきの狀況とは爲れり。予は防寒の一方法として、夙に懷爐灰若干を用意せしも、到底需用數の携帶を許さず。偶蘭州出發後寒威俄然酷烈と爲り、加之時に夜行をなせし爲め邪風の犯す所と爲り、次で腸胃加答兒と變症せし爲め腹部を温むるの必要あり、之を用ひしに暫時にして消費し盡しぬ。是に於て試みに粗製の抹香を購ひ、之を紙筒に入れ。懷爐灰の代用